

## 自己評価報告書

平成 23 年 5 月 16 日現在

機関番号：24506

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2012

課題番号：20390556

研究課題名（和文）糖尿病患者へのエンボディメントケアの実用化の検討

研究課題名（英文） Practical Study of Embodiment Care Model for Diabetic Patients

研究代表者 野並 葉子（YOUKO NONAMI）

兵庫県立大学・看護学部・教授

研究者番号：20254469

研究分野：慢性病看護

科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学

キーワード：慢性病看護 糖尿病看護 エンボディメントケア

## 1. 研究計画の概要

平成 14 年度よりパトリシア・ベナーによるケアリングの考えを理論的前提として、糖尿病患者へのヒューマン・ケアリングアプローチとして、糖尿病患者へのエンボディメントケアの開発を行ってきた。本研究では、先行研究に引き続き、「糖尿病患者へのエンボディメントケア」介入プロトコルの作成及び有用性の検討ならびに、Community of Practice の手法を用いたモデルの実用化への検討を目的としている。

◆研究課題Ⅰ 糖尿病患者へのエンボディメントケア介入プロトコルの作成及び有用性の検討（平成 20～22 年度）

本ケアは、「あいまいな体験に輪郭を与える」「身体の理解を深める」「身体の信頼感を取り戻す」「新しい対処法を身につける」の 4 つのケアより構成される。これらのケアについて具体的な介入プロトコルの作成及び検証を行う。

◆研究課題Ⅱ 糖尿病患者へのエンボディメントケアの実用化への取り組み（平成 22～24 年度）

研究課題Ⅰで作成されたケアプロトコルの臨床で提供していくための実践家を育成を目指し、Community of Practice の手法を用い慢性疾患看護専門看護師を中核とした実践共同体を育成していくことを目的とする。また、実践者を育成していくための学習支援プログラムを検討・実施していく。

## 2. 研究の進捗状況

◆研究課題Ⅰ 糖尿病患者へのエンボディメントケア介入プロトコルの作成及び有用性の検討

平成 20～21 年度にかけて、4 つのケアの具体的な看護介入プロトコルを作成した。プ

ロトコールは看護者の姿勢、問いかけ、手の動き、患者の反応を捉える視点からケアを構造化し、実践・演習を通して開発した。さらに、日本糖尿病教育・看護学会学術集会での発表、交流集会、研究者所属施設でのワークショップの開催を通して糖尿病看護を実践する方より意見を頂きながらより具体的かつ分かりやすいプロトコールへと精錬させていった。

◆研究課題Ⅱ 糖尿病患者へのエンボディメントケアの実用化への取り組み（平成 22～24 年度）

糖尿病患者へのエンボディメントケア実践家の育成を目指し、平成 21 年度に 2 日間、平成 22 年度に 5 日間のワークショップを開催した。ワークショップは、エティエンヌ・ウエンガーらの Community of Practice の考え方を基に学習支援プログラムを検討した。具体的には、学習者個人の能力の向上と、実践コミュニティの発展を目指し、「知識の獲得」「観察と模倣」「共有」を基に構造化し、①ケアの概要の説明、②デモンストレーションと演習、③グループディスカッション、④インターネットコミュニティの活用の 4 つからなっている。

コミュニティの発展、状況的学習の軌道、実践によって生みだされた知識の 3 点から、本プログラムの効果を検討している。コミュニティは、「糖尿病患者へのエンボディメントケアモデル」開発者 12 名からなるコアグループと継続的にワークショップに参加した 10 名の看護師（（糖尿病看護平均経験年数 8.4 年）からなるアクティブグループ、ワークショップの手伝い等の 4 名からなる周辺グループ（大学院生等）が 1 年間かけて発展した。その結果、「エンボディメントケアの

根幹である、糖尿病患者への向き合い方を身につけるには時間がかかる。ワークショップの実践の中で、何かふっとわかる瞬間があった。何かそれが出るまで、このように集まって、ケアを見てもらったり、誰かのケアを見たり、ディスカッションしたり、それがなるとこのプロトコルは成り立たないと思う」という学習が生まれている。また、ワークショップの学習のプロセスで、新たな知識が生まれ、糖尿病患者へのエンボディメントケアの2番目「身体を理解を深めるケア」、3番目「身体の信頼感を取り戻すケア」、4番目「新しい対処法（生活習慣）を身につけるケア」のプロトコルが修正された。

本年度、ウェブサイトを開設したが、ここでの情報共有やディスカッションなどは行われておらず、今年度は定期的集まる機会があることから活用が少なかつたと考えられ、今後、実践コミュニティを発展させていくための手段としてのウェブサイト活用方法について検討していくことを課題とする。

### 3. 現在までの達成度

#### ②おおむね順調 (理由)

研究計画立案時には、糖尿病患者へのエンボディメントケアについて臨床での評価研究と並行させながら実践家を育成していく計画であったが、現状として臨床での実践家が少なく、実践家を育成していくことを優先して考えワークショップを開催している。また、ワークショップの拠点を複数設けることを予定していたが、それを担うことのできる実践家の育成が課題であり、現状として研究者所属施設のみでの開催となっている。今後、実践家の育成に伴い、臨床でのケアの評価研究を行っていくとともに、実践家の育成を行うことで当初の研究計画を達成する予定である。

#### 4. 今後の研究の推進方策

平成 23、24 年度は、糖尿病患者へのエンボディメントケアの実用化の検討に向けてまず実践家の育成を行っていくとともに、臨床実践の中でケアの評価研究を行ない、ケアの有効性について検証していく。また、実践共同体としてのコミュニティを発展させていくための方略について検討し、より多くの看護者に実践を拡げていける方法について検討していく予定である。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 6 件)

①米田昭子、曾根晶子、添田百合子、馬場敦子、野並葉子、河田照絵、糖尿病患者へのエンボディメントケア実用化の検討—「あいまいな体験に輪郭を与えるケア」のプロトコル

作成—、第 14 回日本糖尿病教育・看護学会 学術集会、2009 年 9 月 19 日、札幌コンベンションセンター (札幌)

②鈴木智津子、添田百合子、上野聡子、齋藤美子、仲村直子、野並葉子、河田照絵、糖尿病患者へのエンボディメントケアの実用化の検討—「身体を理解を深めるケア」のプロトコル作成—、第 14 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会、札幌コンベンションセンター (札幌)

③伊波早苗、曾根晶子、魚里明子、近藤千明、野並葉子、河田照絵、糖尿病患者へのエンボディメントケア実用化の検討—「身体への信頼感を取り戻すケア」のプロトコル作成—、第 14 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会、札幌コンベンションセンター (札幌)

④馬場敦子、米田昭子、野並葉子、河田照絵、糖尿病患者へのエンボディメントケアの実用化の検討—「新しい対処法が身につくケア」のプロトコル作成—、第 14 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会、札幌コンベンションセンター (札幌)

⑤野並葉子、米田昭子、伊波早苗、鈴木智津子、馬場敦子、交流集会「『糖尿病患者へのエンボディメントケア』モデルの中核的な技能」、第 14 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会、札幌コンベンションセンター (札幌)

⑥野並葉子、米田昭子、河田照絵、上野聡子、魚里明子、鈴木智津子、糖尿病患者へのエンボディメントケアの有用性の検討—あいまいな体験に輪郭を与えるケアに焦点をあてて—、第 4 回日本慢性看護学会学術集会、カデル 2・7 (札幌)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

〔その他〕

①糖尿病患者へのエンボディメントケアワークショップ、2010 年 2 月 27、28 日、兵庫県立大学明石キャンパス、参加者 28 名

②糖尿病患者へのエンボディメントケアワークショップ、2010 年 9 月 19、20 日、10 月 30 日、11 月 20 日、2011 年 2 月 19 日、兵庫県立大学明石キャンパス、参加者 24 名

③ホームページ開設

<http://embodimentcare.oboroduki.com/>